

東北ニュース - 4月19日(火)7時4分

東北大教授ら台湾企業と共同研究 新型ディスプレイ開発へ

東北大の工学、医学系の教授が中心となってつくるNPO「科学協力学際センター」は18日、台湾の大手電機メーカー「東元電機」と共同研究の協定を結んだ。センター理事長の川添良幸東北大金属材料研究所教授の研究技術を応用した高性能の新型ディスプレイの開発に取り組むほか、研究者の交流なども実施する。期間は5年。

仙台市で開かれた協定締結式には東元電機の黄茂雄・会長兼最高経営責任者(CEO)と、川添教授が出席。黄CEOは「センターの協力で、国際的に技術開発を進められるのは大変、幸せだ」と述べ、川添教授も「技術協力にとどまらず、国内の研究者を紹介するなど、幅広く連携したい」と抱負を語った。

川添教授は、原子レベルの微細な物質を加工するナノテクノロジーを使い、コンピューター上で材料モデルのシミュレーションを研究してきた。共同研究ではこの技術をディスプレイの素材開発に応用。高性能ディスプレイを現在の5分の1ほどの価格で製造することを目指す。黄CEOは日本の経団連に相当する台湾の経済団体「中華民国工商協進会」の理事長。共同研究は、共通の知人を介して知り合った黄CEOと川添教授が国際的な産学連携を進める考えで一致し、実現した。

学際センターは、科学技術の振興と産業の創出、発展に貢献することを目的として03年に発足した。海外の企業と協定を結ぶのは初めて。

川添教授は「今回の協定締結で東北と台湾経済界のつながりが生まれた。これを機に互いの交流を深め、地域活性化にも生かしていきたい」と話している。

(河北新報) - 4月19日7時4分更新